

山本高之とアーツ前橋のビヨンド 20XX 展 関連イベント トーク「図工と道德」を開催します

アーツ前橋で開催中の「山本高之とアーツ前橋のビヨンド 20XX 展 未来を考えるための教室」の関連イベントとして、トーク「図工と道德」を開催します。

本展共同企画者であるアーティストの山本高之は、小学校教諭の経験から「教育にはその時代、その地域の大人たちが思い描く未来像が反映されている」と言い、教育を主要なテーマのひとつとして作品制作を行ってきました。今回山本が前橋滞在中に制作した新作《ビヨンド 2020 道德と芸術》のタイトルにもあるように、物事のあり方を多視点的に捉えるアート（＝図工・美術）と、規範を捉えようとする道德が、義務教育の中で共に教えられている現状はどのように教育現場に反映されているのでしょうか。

教育現場に携わる専門家の声を聞き、未来の学びを考える議論の場を創出します。

1 日時 8月25日（日）14時～16時 ※展覧会は9月16日（月・祝）まで開催。

2 場所 アーツ前橋 1階 スタジオ（千代田町5-1-16）

3 定員 先着40名（要申込）※残席少数

申し込みはアーツ前橋まで電話（027-230-1144）で。

4 登壇者

東良雅人（文部科学省初等中等教育局 視学官）

郡司明子（群馬大学教育学部 准教授）

前島隆宏（群馬県教育委員会 義務教育課教科係 指導主事）

岡田泰孝（お茶の水女子大学 附属小学校教諭）

久保信行（群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター 客員教授）

5 アーティスト

山本高之（やまもと・たかゆき）

1974 年愛知県生まれ。愛知教育大学大学院修了後渡英。ロンドン大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン修了。小学校教諭としての経験から「教育」を中心テーマのひとつとし、子どものワークショップをベースに会話や遊びに潜む創造的な感性を通じて、普段は意識されることのない制度や慣習などの特殊性や、個人と社会の関係性を描く。近年は地域コミュニティと協働して実施するプロジェクトに多く取り組んでいる。2017 年度に文化庁新進芸術家海外研修にてロンドン滞在。主な展覧会に「ゴー・ビトゥイーンズ展：こどもを通して見る世界」（森美術館ほか 2014-2015）、コチ＝ムジリス・ビエンナーレ（インド 2016）。近年の個展に「山本高之 Children of men」（アートラボあいち 2017）など。近著に『芸術と労働』（共著、白川昌生＋杉田敦編、水声社 2018）がある。



本件に関するお問い合わせ先

文化国際課 アーツ前橋

電 話 直通 / 027-230-1144